

メッセージ

アリサ・コトルンナダ・ムナワロ・ワヒド

第1回庭野平和賞奨励賞受賞者

このたび、庭野平和財団から庭野平和賞奨励賞を受賞したこと、私にとっては心から有難く、名誉なことです。この賞は、道なき道を歩む私たちの苦難を認めて下さっただけでなく、極めて険しい道であるけれど、しかし私たちは正しい道を旅しているのだと、認めて下さったのだと感じています。

私が平和と人道のための活動を始めたとき、その動機はとても個人的なものでした。私の父であるワヒド大統領、インドネシアではガス・ドゥルと呼ばれて親しまれていますが、は2009年の末に他界しました。彼の死は何百万人もの人々に悼まれましたが、参集したその多くはインドネシア国内のラキアット(※インドネシア語で「市井の人々・庶民」の意)や社会的弱者の人々でした。彼はヒューマニティ(人道)、平和、正義の擁護者だったのです。最も弱い立場にある人々にとって父は避難場所のような存在であったため、彼らは「グス・ドゥルが亡くなった今、助けが必要な時に一体どこに行けばいいのか、」と言いました。そこで、私たち姉妹は父の活動を引き継ぐ決心をしたのです。

2011年、他ならぬ人々の強い求めと志しただけで、わずかな人々からの支援を得て「グスドリアン・ネットワーク [Gusdurian Network]」をスタートさせました。資金やその他のリソースは何もありませんでした。どのようなネットワークにするかという具体的なアイデアすら定まっていませんでした。ただ、課題がますます大きくなり、支援を必要とする弱者が増えていく中で、私たちがもう活動を始めなければならないだけは分かっていました。

現在、このネットワークは150以上の都市に支部を持ち、何千人の草の根の活動家が人道と正義を推進しています。私たちは、信仰指導者、若者、女性、ジャーナリスト、国家機関、市民社会組織、地域社会と協力し、人々との間の架け橋となる空間を創り上げました。私たちは、憲法と人権を擁護し、地域的な事柄から国家戦略的な課題に至るまで取り組んでいます。

私たちはまだ資金調達のための機能を持っておらず、限られた資源の中で活動をしています。しかし、これは私が学んだ最高の教訓ともなっています。財政的な資源がいかに乏しくても、活動を行う際に、もし私たちが、人々のためにという誠実な意図、そしてビジョンをしっかりと持つていれば、人々はその活動の結果に責任を負う意志を持って参画する、そして、人々がそれを他ならぬ自らの活動だとして負うようになると、それは私たちの個人的な能力をはるかに超えて大きなものに成長する、ということです。重要なことは信頼を構築することであり、それは私たち自身が、本来の崇高な意図に対して、そして運動が誠実であることに對して、真摯であることから生まれてくる、ということを教訓にしています。

グス・ドゥルがいつも「正義のない平和などただの幻影にすぎない」と言っていました。平和を実現することは本当に困難なことだと感じ、その正義でさえ、常に掴みどころがなく、果たすのは不可能だと感じることもあります。しかし、闘わず、弱い立場の人々の命を犠牲にして安楽な生活を送ることの方が、本当は私たちの良心に途方もなく大きな負担をもたらすのだと思います。私たちは奮闘による痛みを受け入れて、進歩していくためのダンス、一步進み、二歩下がり、三歩進み、一步下がり、を学びながら、すべての人々にとってより良い世界を目指して一歩ずつ旅を続けるのだと思っています。

活動の成長とともに、私自身の動機も「自分の能力を最大限に發揮して人道に貢献する」という、より大きな使命へと変化しています。挑戦すべき課題は大きくなり続けており、それについて自分がなすべきことも大きくなっています。この活動のリーダーとして、個人として最も重要な課題は、成長思考を養い、生涯学習者として新しいスキルや知恵を身につけることです。私は、リーダーとは学習者であると信じています。自分自身のために、そして自分が率いる人々のためにも。

今回の庭野平和賞奨励賞の受賞は、私たちの歩みを振り返らせてくれました。私たちは賞を受賞することを目標に活動してきたわけではありませんが、この奨励賞を受賞したことは大変光栄なことです。私たちが正しい方向に進んでいることの証となりました。人々に、特に最も疎外され弱い立場に置かれている人々に仕えるという精神を、私たちは新たにしています。そして、より良い世界のために奮闘するという私たちの誓いを再び強固なものにしています。公正で平和な世界。そのために、この世界のあらゆるグスドゥリアンを代表して、私たちは心から感謝を表します。

私たちとこの世界に平和が訪れますように。

アリサ・コトルンナダ・ムナワロ・ワヒド
(グスドゥリアン・ネットワーク、ナショナル・ダイレクター)